

## ◆第34回東京国際映画祭：新ポスター解禁！ ビジュアル監修はコシノジュンコ！

10月30日（土）～11月8日（月）にて開催予定の第34回東京国際映画祭。この度新たなポスターが完成した。昨年まではソフトバンクのCMなどで有名な佐々木宏氏がクリエイティブ・ディレクターを務め、蛭川実花さんの写真をあしらった形のデザインでポスターを展開してきていましたが、今年からは日比谷・有楽町・銀座エリアへの移転や部門の改変などもあり、東京国際映画祭が新たに生まれ変わる年ということで、ポスタービジュアルも人をフィーチャーした形のこれまでにないものに刷新をしました。

そして、今回のビジュアルを手掛けて頂いたのは世界的に著名なデザイナー、コシノジュンコさんになります。

コシノさんがご自身で作った伊藤若冲のニワトリの画をモチーフにした衣装をまとった女性が風を切って歩いていくイメージで作り上げたものになります。今年の東京国際映画祭の大きなテーマの1つとして「越境」というコンセプトがあり、コロナによるコミュニケーションの断絶、男女差別、経済格差、国際紛争、色々なボーダーが世界にはあるかと思いますが、そういったものを乗り越えて、さらにその先にある映画の姿を覗いて頂きたいという思いがありました。今回コシノさんに手掛けて頂いたポスターはそういったコンセプトをビジュアルに表現してもらったものになります。風を切って未来に向かっていく映画の姿を東京国際映画祭でご覧頂ければと思います。

■コメント コシノジュンコ：映画祭は憧れなので、今回のお話を頂いたときはびっくりもしましたがとても嬉しかったです。今回のビジュアルはカッコいい女性が、コロナも吹っ切れて、前に向かう、風を切って向かうというイメージが今回の東京国際映画祭のある意味でのビジョンでもあるかと思いました。そういう意味で、理屈ではなく、見てわかるというような、風を切って歩いて行くというような、そういったイメージで作りました。

東京国際映画祭チェアマン安藤裕康：コシノジュンコさんとは、これまでパリ、ニューヨーク、アジアの国々など世界中のあちこちで仕事を一緒にしてきましたが、その国際感覚の豊かさと前向きなエネルギーにいつも圧倒されてきました。そういうコシノさんにこのたびデザインを担当頂くことになって、東京国際映画祭が国際色を一段と強め、ステップアップしていければと思っています。

コシノジュンコプロフィール：1978年から22年間パリコレクション参加。以降、北京、NY（メトロポリタン美術館）、キューバなど世界でショーを開催。国際的な文化交流に力を入れる。ブロードウェイミュージカル、JOCセカンドエンブレム等を手掛ける他、国内被災地への復興支援活動も行っている。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会文化・教育委員、2025年国際博覧会誘致特使、平成29年度文化功労者。2021年フランス政府より「レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ」受賞。近著「コシノジュンコ 56の大丈夫」世界文化社。

### <第34回東京国際映画祭 開催概要>

■開催期間：2021年10月30日（土）—11月8日（月）

■会場：日比谷・有楽町・銀座 地区

■公式サイト：www.tiff-jp.net



### <TIFFCOM2021 開催概要>

■開催期間 2021年11月1日（月）—3日（水・祝）

■会場：オンライン

■公式サイト：www.tiffcom.jp



## ◆第34回東京国際映画祭の顔：【オープニング】【クロージング】の2作品が決定！！

★オープニング作品：『クライ・マッチョ』

★クロージング作品：『ディア・エヴァン・ハンセン』

10月30日（土）11月8日（月）開催の第34回東京国際映画祭。本年度のオープニング作品とクロージング作品が決定しました。東京国際映画祭としては昨年からのコロナ禍の中で「映画館で映画を観る喜び」を伝えるべく映画館でのフィジカル上映を基本姿勢としており、まさにその喜びをご体験頂ける2作品が決定しました。

オープニング作品はハリウッドの伝説、クリント・イーストウッド監督が主演も兼ねた最新作『クライ・マッチョ』。クリント・イーストウッド監督の50周年記念作品でもある本作は、人生に失敗した男と親の愛を知らない少年がメキシコを横断していく中で人生に必要な「本当の強さ」とは何なのか？を見出し、感動作になっており、映画祭の開幕を熱く盛り上げます。

クロージング作品は『ディア・エヴァン・ハンセン』。先のトロント国際映画祭のオープニングを飾った本作は、『ラ・ラ・ランド』『グレイテスト・ショーマン』の音楽チームで贈る大ヒットミュージカルの映画化作品で、1通の手紙と“思いやりの嘘”をきっかけに「本当の自分」に気づくまでの過程を描く、希望に満ちた物語が映画祭の終幕を飾ります。

■オープニング 作品『クライ・マッチョ』

イーストウッド監督 50周年作品

一世を風靡したロデオ界の元スター、マイク。その栄光はいまや過去の事。落馬事故をきっかけに、今は競走馬の種付けで細々と一人で暮らしていた。だがある日、マイクは元雇い主から、メキシコにいる彼の息子ラフォの誘拐を依頼される。メキシコからテキサスへ——その危険で壮大な道のりは、予想外の困難と思いがけない出会いが待ち受けていた。2人が最後に見つけた「新たな生きざま」とは



© 2021 Warner Bros. Ent. All Rights Reserved

監督：クリント・イーストウッド  
 出演：クリント・イーストウッド、エドゥアルド・ミネット  
 配給：ワーナーブラザー ス映画 2022年1月14日公開アメリカ  
**■クロージング作品『ディア・エヴァン・ハンセン』**

親愛なる“あなた”へ贈る、心震わす感涙ミュージカル

エヴァン・ハンセンは学校に友達もなく、家族にも心を開けずにいる。ある日、自分宛に書いた Dear Evan Hansen (親愛なるエヴァン・ハンセンへ)”から始まる手紙を、知らずとも同級生のコナーに持ち去られてしまう。後日、校長から呼び出されたエヴァンは、コナーが自ら命を絶った事を知られる。悲しみに暮れるコナーの両親は、手紙を見つけ息子とエヴァンが親友だったと思ひ込む。彼らをこれ以上苦しめたくないエヴァンは思わす話を合わせてしまう。そして促されるままに語った“ありもしないコナーとの思い出”は人々の心を打ち、SNSを通じて世界中に広がり、彼の人生は大きく動き出す。

監督：スティーヴン・チョボスキー  
 出演：ベン・ブラット、エイミー・アダムス、ジュリアン・ムーア、ケイトリン・デヴァー  
 配給：東宝東和 2021年11月26日公開 / アメリカ



© 2021 Universal Studios. All Rights Reserved.

## ◆第34回東京国際映画祭：コンペティション部門審査委員長イザベル・ユペールに決定！！

10月30日(土)11月8日(月)開催の第34回東京国際映画祭で、映画祭の顔となるコンペティション部門の審査委員長を、世界的に活躍するフランスの女優、イザベル・ユペールが務めることが決定した！一昨年のチャン・ツイイーに続き、女性の審査委員長となる。その他の審査員(全5名予定)に関しては、後日案内。世界中から集められた珠玉のコンペ作品(全15作品)を世界の目で審査して頂く。

**■コメント** イザベル・ユペール：第34回東京国際映画祭のコンペティション国際審査委員の委員長に選ばれたことを光栄に思います。

東京国際映画祭は世界で最も重要な映画祭の一つであると、私は大いに尊敬してきました。素晴らしい文化と堂々たる映画史を誇る国、日本に再び迎え入れてもらえる喜びを感じています。



©Peter Lindbergh, courtesy Peter Lindbergh Foundation, Paris

**東東京国際映画祭チェアマン 安藤裕康**：イザベル・ユペールさんは、知性と見識を備えたフランスの大女優であるばかりか、広く国際的な活躍により、今や世界を代表する映画人です。しかも大の日本ファンでもあります。

コロナ禍にも拘らず審査委員長として来日して頂けることになり、私たちの映画祭に大きな花を咲かせてくださるでしょう。

**イザベル・ユペール プロフィール**：多数の賞に輝く舞台・映画女優。『レースを編む女』(クロード・ゴレッタ監督で英国アカデミー賞新人賞。)'主婦マリーがしたこと』(クロード・シャプロル監督)、『沈黙の女 ロウフィールド館の惨劇』(クロード・シャプロル監督)でヴェネチア映画祭女優賞。『ガブリエル』(パトリス・シェロー監督を含む全キャリアで、ヴェネチア映画祭特別獅子賞生涯功労賞。『ヴィオレット・ノジュール』(クロード・シャプロル監督、'ピアニスト』(ミヒヤエル・ハネケ監督)でカンヌ映画祭女優賞。『沈黙の女ロウフィールド館の惨劇』(クロード・シャプロル監督)、'エル ELLE』(ポール・バーホーベン監督でセザール賞。同じく『エル ELLE』でゴッサム・インディペンデント映画賞、ゴールデングローブ賞、インディペンデント・スピリット賞のほか、アカデミー賞主演女優賞にノミネートされた。

舞台賞では、その功績を称えられモリエール賞およびローマの「XVI Prix Europe pour le Th Théâtre」を受賞。モーリス・ピアラ、ジャンリュック・ゴダール、マウロ・ボロニーニ、マルコ・フェレーリ、マイケル・チミノ、アンジェイ・ワイダ、ジャック・ドワイヨン、タヴィアーニ兄弟、カーティス・ハンソン、ハル・ハートリー、リティ・パン、デヴィッド・O・ラッセル、プリランテ・メンドーサ、ホン・サンズ、マルコ・ベロッキオなど、多数の監督の作品に出演している。

舞台出演作には、ブルックリン・アカデミー・オブ・ミュージックで上演された「4.48Psychosis」、'Quartet」ボブ・ウィルソン演出、「Phaedra (s)」クリストフ・ワルリコフスキ演出。オデオン劇場で上演され、欧州ほかの都市も巡業した「メデア」、「ヘッダ・ガーブレル」、「A Streetcar」クリストフ・ワルリコフスキ演出。シドニー・シアター・カンパニー、ニューヨーク・シティ・センターでのリンカーン・センター・フェス ティバルで上演された「女中たち」ベネディクト・アンドリュース演出、ケイト・ブランシェット共演。ロンドンの国立劇場で上演された「マアリー・ステュアート」。そのほか「偽りの告白」、「オーランドー」ロバート・ウィルソン演出、「Mary Said What She Said」ロバート・ウィルソン演出、「ガラスの動物園」イヴォ・ヴァン・ホーヴェ演出、「桜の園」ティアゴ・ロドリゲス演出がある。また、レジオン・ド・ヌール勲章シュバリ工章、メリット勲章オフィシ工章、芸術文化勲章コマンドゥール章を受章。第62回カンヌ映画祭では審査委員長を務めた。

## ◆ 第34回東京国際映画祭ラインナップ発表記者会見 報告レポート

第34回東京国際映画祭開催まで残すところあと約1カ月！9月28日、東京ミッドタウン日比谷 BASE Q HALL にて各部門の上映作品ラインナップ発表・審査委員・各イベントの魅力・見所を発表する記者会見を開催致した。

今年からは六本木地区から日比谷・有楽町・銀座エリアへの移転や17年ぶりとなるプログラミング・ディレクター（市山尚三氏）の変更、部門の改編などもあり、東京国際映画祭が新たに生まれ変わる年になります。

イベント冒頭、司会より、本年度の映画祭におけるコロナ対策の検査体制の説明や会場移転・TIFF & TIFFCOM の連携などに関する紹介。さらに、本年度のビジュアルを手掛けてくれたコシノジュンコさんからのビデオコメントや、King Gnu の常田大希率いる millennium parade による「Bon Dance」がフェスティバルソングに選ばれたこと、映画祭のSDGsへの取り組みを紹介しました。

その後、安藤裕康チェアマンより開催の挨拶と本年度の映画祭のビジョンに関する発表があった。

113の国と地域、1,533本もの応募の中から15作品がコンペティション部門に選ばれ、日本からも松居大悟（まついだいご）監督による『ちょっと思い出しただけ』と野原位（のほらただし）監督による『三度目の、正直』の2作品が選出されました。

※他、コンペティション入選作品は本リリースに添付されています。

第34回東京国際映画祭のフェスティバル・アンバサダーを務める、女優の橋本愛（はしもとあい）氏は、フェスティバル・アンバサダーとして選ばれた時の想いや意気込みを語った。さらに本年度より新設された「Nippon Cinema Now」部門において特集す吉田恵輔（よしだけいすけ）監督、提携企画「東京フィルメックス」のプログラム・ディレクター神谷直希（かみやなおき）氏、映像コンテンツマーケット TIFFCOM の松本浩（まつもとひろし）氏が登壇した。また、昨年に続き、アジアを含む世界各国・地域を代表する映画人と第一線で活躍する日本の映画人によるトークシリーズ「アジア交流ラウンジ」の企画検討会議メンバーである是枝裕和（これえだひろかず）監督からのビデオコメントが上映された。

コンペティション部門の審査委員長は、世界的に活躍する女優・イザベル・ユペール氏。一昨年のチャン・ツィイーに続き、女性の審査員長を務めることになる。審査員としては、国際映画批評家連盟より刊行されている『Undercurrent』の編集長、Boston Phoenix 紙の映画評論家を務め、数多くの雑誌、ジャーナル、新聞に寄稿している映画評論家・プログラマー、クリス・フジワラ氏。Focus Films（香港）、Variety（アメリカ）、Irresistible Films（香港/日本）での経験を経て、Berlinale や Cinemasia Film Festival などの映画祭でも活躍している映画プロデューサー・キュレーター、ローナ・ティー氏。日本の映画音楽作曲家、世武裕子（せぶひろこ）氏。そして、映画監督の青山真治（あおやましんじ）監督。以上、5名が審査員。

※他、各部門の審査委員の詳細は映画祭公式サイトに掲載されている。



©2021 TIFF

オープニング作品のクリント・イーストウッド監督50周年記念作品『クライ・マッチョ』と、クロージング作品である大ヒットミュージカルの映画化作品『ディア・エヴァン・ハンセン』の予告編が上映された後、本年度よりプログラミング・ディレクターに就任した市山尚三氏より、部門改編の説明と、「コンペティション部門」「ガラ部門」に選出された作品の紹介。石坂健治シニア・プログラマーより「アジアの未来」部門の作品の紹介。さらに、藤津亮太プログラミング・アドバイザーより「ジャパニーズ・アニメーション」部門の紹介が、そして司会より新人を対象にした短編コンテスト「Amazon Prime Video テイクワン賞」など、その他部門の紹介が行われ、質疑応答も行われた。

第34回東京国際映画祭は10月30日（土）～11月8日（月）の10日間の開催期間中、99本（9/28現在で上映が決まっている作品数）の映画が上映される。

### <第34回東京国際映画祭ラインナップ発表記者会見概要>

- 日時: 9月28日（火）15:30
- 会場: BASE Q HALL（東京都千代田区有楽町1丁目1-2 東京ミッドタウン日比谷6F）
- 司会: 荘口彰久（フリーアナウンサー）
- 出席者: 安藤裕康（第34回東京国際映画祭チェアマン）/ 松本浩（TIFFCOM事務局長）/ 市山尚三（プログラミング・ディレクター）/ 石坂健治（シニア・プログラマー）/ 藤津亮太（「ジャパニーズ・アニメーション」部門 プログラミング・アドバイザー）
- ゲスト: 橋本愛（フェスティバル・アンバサダー）  
吉田恵輔監督（「Nippon Cinema Now」部門特集監督）  
神谷直希（「東京フィルメックス」プログラム・ディレクター）

本年の映画祭開催にあたり、感染防止対策に万全を期し、マスクミ・観客の皆様への安心・安全を確保するため、東京都策定の「東京都感染拡大防止ガイドライン」及び全国興行生活衛生同業組合連合会策定の「映画館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を踏まえた形での感染予防の取り組みを行う。

【東京国際映画祭チェアマン 安藤裕康 コメント】今年こそリアルで対面の交流を大々的に実現したかったが、まだまだ余談を許さな

い状況。コロナを乗り越え、ポストコロナの映画の新しい未来を模索し、来年の布石になる様に努めたい。17年ぶりに六本木から日比谷・有楽町・銀座地区という伝統ある映画の街に会場が移転し、より広いお客さんに親しんでもらいたい。また、17年ぶりにプロダクション・ディレクターも交代となり、部門の改編も含め、充実した様々な作品が集まったと思う。「国際映画祭」という名にふさわしい映画祭にしたい。

**【第34回東京国際映画祭フェスティバル・アンバサダー 橋本愛さん コメント】**アンバサダーを務めさせていただきます、橋本愛です。これまでも、プライベートでも作品を観に行かせてもらって人生を救われたり、出演させていただいた作品でレッドカーペットを歩かせていただいたり、舞台挨拶をさせていただいたり、東京国際映画祭とはご縁があったのですが、今回は新たなご縁があってすごく嬉しいです。映画というものが日本という島国において、より地中深く根を張って、皆さんの生活にはびこって、根付いてほしいなと願っています。

**【是枝監督 コメント】**映画祭というものは、人が集うことで成立するものです。このコロナ禍でいろんな人が色々な場所から隔てられて、集えなくなった時に、隔たりを超えて、映画というものが、映画祭というものが成り立つのかというものを考えるいい機会になればいいなと思い、今年は“越境”というテーマを掲げました。自分たちが目指す、あるべき東京国際映画祭という形というものを、具体的に映画ファンの皆さんに提示できる様に、その助けに少しでもなればいいなと思っています。

**【審査委員長 イザベル・ユベール コメント】**第34回東京国際映画祭のコンペティション国際審査委員の委員長に選ばれたことを光栄に思います。東京国際映画祭は世界で最も重要な映画祭の一つであると、私は大いに尊敬してきました。素晴らしい文化と堂々たる映画史を誇る国、日本に再び迎え入れてもらえる喜びを感じています。これまで世界各地の映画祭で審査委員長を務めてきましたが、様々なバックグラウンドを持ちながら映画への愛でつながった才能ある仲間たちと自分の視点を共有する経験はいつも刺激的です。今回の映画祭の成功をお祈りするとともに、他の審査員の皆さんと一緒に劇場で今年の入選作を拜見することを楽しみにしています。本当に何と幸運なことでしょう。

**【橋本愛さん Q&A】**

**Q.** 橋本さんにとって、東京国際映画祭とはどんな映画祭でしたか？

**A.** この時期、空いている日があるときには映画祭のHPでプログラムを検索して、今この映画をやっているんだと調べてよく観客としても映画祭には通っていました。自分の人生が救われた経験もあります。映画祭で観た『エンドレンス・ポエトリー』という作品の中に、「愛されなかったから、愛を知ったんだ」という印象的なセリフがあるのですが、得られなかったものがあるからこそ、自分が何を得たかったのかということが分かると気付いて。だから、この人とうまくいかないなあというのは、その人のことを大切に思っているからなんだと感謝の気持ちが生まれました。

**Q.** 東京国際映画祭に望むことがありましたら教えてください？

**A.** これまでも、十分楽しませていただいているのですが、映画という文化が、日本という島国の地中深くに根を張って、皆さんの一人ひとりの生活の中に映画がはびこってほしいと願っています。現状に満足せずに、どうしたらいいのかということを考えていけるようにと願っています。

**Q.** 今年の東京国際映画祭で観たい作品はございますか？

**A.** オープニング作品にもなっている、クリント・イーストウッド監督の『クライ・マッチョ』ですかね。あと、私はダンスや舞踊など身体芸術が好きなので、田中泯さんの作品が楽しみです。

**Q.** コロナ禍における文化芸術の意義とは？

**A.** 自分自身が文化芸術に生かされてきたのですが、芸術は心を救ってくれて支えになってくれるものだと思います。芸術というのは心を救ってくれるものだと思っていて、心を救う一端を担っていると思っていますので、文化芸術は早急に必要なものではないと言われると悲しい気持ちになってしまいます。映画に触れて少しでも癒やされて欲しいなとおもいますし、私も作り手として、一つ一つの作品を大事に丁寧に作っているの、一人でも多くの人に作品が届いて、そういった考えが根付いていってくれたら嬉しいなと思います。

**【吉田恵輔監督 Q&A】**

**Q.** 今回の、特集が決まった時に、「嬉しくてお漏らししてます」とコメントを寄せていらっしゃいますが。

**A.** 自分はいあまり選ばれるタイプの監督じゃないんですよ。ベスト10とかにも。なんか、僕でいいんですかって思ってお漏らししました。東京国際映画祭というスーツを着ているカタイ人たちが多いので、委縮して2度目のお漏らしをしています。

**Q.** 吉田監督が作品作りにおいて、大切にしていることなどありますか？

**A.** 基本的には、みんなが持っている感情の変化を大事にしています。人にあまり見られたくない、嫉妬や自己顕示欲だったり、恥部の様な部分を描いてますね。自分自身の心をさらけ出して、こんな自分でも変わる可能性もあるぜっていうことを、映画ではいつも描いています。

**Q.** 吉田監督にとって映画とはどんな存在でしょうか？

**A.** 幼稚園になるころには、映画監督になるって言っていたんです。大好きなジャッキー・チェンに会いたいと親にいったら、映画監督になれば会えるよと親に言われて。映画には僕も何度も救われましたが、色々あって、時々映画っていやだなんていう気分にもなることがあるんです。そんな時に、これだっていう1本に出合うことがあって、また映画好きに戻って。自分もそんな映画好きに戻れるような作品を撮りたいなとおもいます。

**Q.** コロナ禍における文化芸術の意義とは？

**A.** コロナだなんだなんてこれからも続くでしょう。なので国だったり周りがなんだかんだ言ったとしても、作り手の想いはそんなやわじゃない。映画を作りたいという情熱はなくなると信じています。

**【東京国際映画祭チェアマン 安藤裕康 Q&A】**

**Q.** コロナ禍における文化芸術の意義とは？

# Information and Topics

**A.** 感染対策も大事、経済を回していくのも大切、けれども文化芸術も同じくらい重要だと感じている。文化芸術は我々の心の問題なので、どう人生を感じるのかということを経験から学んでいけると思っている。文化芸術を国民全体で大切にしていこうということが大切だともっていて、だからこの不確定要素の多い中で東京国際映画祭を開催することを決めました。

**【東京国際映画祭プログラミング・ディレクター 市山尚三 Q&A】**

**Q.** コロナ禍における文化芸術の意義とは？

**A.** 文化芸術に癒やされることもあるとおもう。こんな状況になっ

たからこそ、文化の大切さも改めて認識されるようになったのではないかとおもいます。

コンペティション部門出品作品一覧「コンペティション部門」応募作品数 ( ) 内は昨年数:1,533本 (1,356本) 国と地域数:113 (107) ・女性監督の作品は男女共同監督作品の4本を含めて29本 (約31.87%) (昨年は男女共同監督作品の6本を含めて23本 (約16.67%)) ※プレミア表記は下記の通り WP=ワールド・プレミア AP=アジアン・プレミア JP=ジャパン・プレミア

作品名	プレミア	監督名	製作国
アリサカ	WP	ミカイル・レッド	フィリピン
カリフォルニー	AP	アレックスandro・カッシゴリ、ケイシー・カウフマン	イタリア
クレーン・ランタン	WP	ヒラル・バイダロフ	アゼルバイジャン
ザ・ドーター	AP	マヌエル・マルティン・クエンカ	スペイン
その日の夜明け	WP	アソカ・ハンダガマ	スリランカ
四つの壁	WP	バフマン・ゴバディ	トルコ
オマージュ	WP	シン・スウォン	韓国
ちょっと思い出しただけ	WP	松居大悟	日本
市民	AP	テオドラ・アナ・ミハイ	ベルギー/ルーマニア/メキシコ
一人と四人	WP	ジグメ・ティンレー	中国
もうひとりのトム	AP	ロドリゴ・ブラ、ラウラ・サントウージョ	メキシコ/アメリカ
復讐	WP	プリランテ・メンドーサ	フィリピン
ある詩人	WP	ダルジャン・オミルバエフ	カザフスタン
三度目の、正直	WP	野原 位	日本
ヴェラは海の夢を見る	AP	カルトリナ・クラスニチ	コソボ/北マケドニア/アルバニア

**オープニング・クロージング作品**

作品名	プレミア	監督名	製作国
オープニング作品 クライ・マッチョ		クリント・イーストウッド	アメリカ
クロージング作品 ディア・エヴァン・ハンセン	JP	スティーヴン・チョボスキー	アメリカ

**<第34回東京国際映画祭 開催概要>**

■開催期間: 2021年10月30日(土) 11月8日(月)

■会場: 日比谷・有楽町・銀座地区

■公式サイト: [www.tiff-jp.net](http://www.tiff-jp.net)

**<TIFFCOM2021 開催概要>**

■開催期間: 2021年11月1日(月) ~ 3日(水・祝)

■会場: オンライン

■公式サイト: [www.tiffcom.jp](http://www.tiffcom.jp)